

2022年7月29日

### 2022年7~9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

## 製造業中心に持ち直し続くも勢い弱い コロナ再拡大に懸念

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、6月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

#### 現況

- 県内産業の現況（2022年4～6月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「情報サービス」の1業種、『普通』が「製紙」「二輪車部品」「人材派遣」の3業種となった。
- 『低調』は「食品・飲料」「民生用電器部品」「自動車部品」「建設」「住宅」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「観光・レジャー」「外食」の10業種、『不調』の業種はなかった。

#### 今後の見通し

- 2022年7～9月期の見通しについては、『好調』と『順調』は、それぞれ1業種で前期と変わらず、「民生用電器部品」と「観光・レジャー」が『低調』から一段階上昇して『普通』が5業種となる。
- 『低調』は8業種となり、『不調』の業種はない見通し。
- 中国・上海のロックダウンが解除され、県内の生産活動も主力の輸送機器を中心に、徐々に持ち直していくことが見込まれるが、半導体など部品の調達面には依然として不安が残り、回復の勢いは総じて弱い。
- また、夏から秋にかけては観光・レジャーへの期待もかかるが、抑えられていたコロナの感染が全国的に急拡大しており、消費活動への影響が懸念される。

業種	業界天気	
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)
製紙		→ 
食品・飲料		→ 
工作機械		→ 
民生用電器部品		→ 
自動車部品		→ 
二輪車部品		→ 
建設		→ 
住宅		→ 
大型小売店		→ 
自動車販売		→ 
物流		→ 
情報サービス		→ 
人材派遣		→ 
観光・レジャー		→ 
外食		→ 

※本件のお問合せ先 大石 彰男

## 製造業中心に持ち直し続くも勢い弱く、コロナ再拡大に懸念

### 業界景気の現況（2022年4～6月期）

県内産業の現況（2022年4～6月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「情報サービス」の1業種、『普通』が「製紙」「二輪車部品」「人材派遣」の3業種、『低調』が「食品・飲料」「民生用電器部品」「自動車部品」「建設」「住宅」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「観光・レジャー」「外食」の10業種で、『不調』の業種はなかった。

### 業界景気の見通し（2022年7～9月期）

7～9月期の見通しについては、『好調』と『順調』は、それぞれ1業種で前期と変わらず、「民生用電器部品」と「観光・レジャー」が『低調』から一段階上昇して『普通』が5業種となる。『低調』は8業種となり、『不調』の業種はない見通し。中国・上海のロックダウンが解除され、県内の生産活動も主力の輸送機器を中心に徐々に持ち直していくことが見込まれるが、半導体など部品の調達面で依然として不安が残り、回復の勢いは総じて弱い。また、夏から秋にかけては観光・レジャーへの期待もかかるが、抑えられていたコロナの感染が足元で全国的に急拡大しており、消費活動への影響が懸念される。

夏場の繁忙期を迎える「観光・レジャー」は、県民割などの支援策の後押しもあり『低調』から『普通』へ上昇する見込み。一方、家族客を中心に売上、来客数の増加が期待される「外食」は、原材料の高騰で収益環境が厳しく、「大型小売店」も内食需要の減少や相次ぐ値上げで販売が伸び悩み、いずれも『低調』のまま推移する見込み。

製造業では、デジタル化投資など国内外で需要が旺盛な「工作機械」が『好調』をキープ。部品の調達難でエアコン生産のピークが後ろ倒しになっている「民生用電器部品」が『低調』から『普通』に一段階上昇し、業務用需要の回復が続く「製紙」も『普通』を維持するなど、生産活動は全体として回復傾向にある。ただし、本県の主力産業である輸送機器では、半導体などの部品不足が依然として足かせとなりそうで、前期と同じく「自動車部品」は『低調』、需要が旺盛な「二輪車部品」は『普通』のまま推移する見通し。こうした状況を受けて、在庫不足が深刻化している「自動車販売」、輸送用機器関連の影響を受ける「物流」の2業種も『低調』が続く。また、「食品・飲料」では、原燃料価格の高騰に対応して価格改定を実施する予定だが、収益環境は依然厳しく『低調』の見込み。

そのほか、IT投資など堅調な受注環境が続く「情報サービス」が『順調』を維持。また、製造業の挽回生産への期待はあるが自治体向けが縮小する「人材派遣」は『普通』で変わらず。前年の反動で民間工事の減少が予想される「建設」、販売価格の上昇で購入を控える動きが増加している「住宅」の2業種は、『低調』のまま推移する見通し。

## 2022年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業 種	業 界 天 気		売 上 高 (前年同期比伸び率)	主 要 産 業 の 見 通 し
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)		
製 紙	 → 	→	↗	業務用は回復傾向だが、原燃料価格の高騰で収益性悪化
食 品 ・ 飲 料	 → 	→	→	価格改定が予想されるが、厳しい収益環境が続く
工 作 機 械	 → 	→	↗	国内外でデジタル／グリーン化投資が進み、堅調な受注環境が続く
民生用電器部品	 → 	→	↗	部品の調達難で、エアコン製造のピークが後ろ倒しになり前年比増
自動車部品	 → 	→	↗	生産量は回復傾向だが、部品の調達難で低水準にとどまる見通し
二輪車部品	 → 	→	→	完成車の需要旺盛だが供給網整わず、受注量は前年並み
建 設	 → 	→	↘	公共工事は回復予想だが、民間工事は前年を下回る見通し
住 宅	 → 	→	↘	価格上昇で購入を控える動きが増加、着工戸数は前年を下回る見通し
大 型 小 売 店	 → 	→	↗	百貨店は回復、スーパーは内食需要の減少で前年をやや下回る
自動車販売	 → 	→	↘	在庫不足により、販売台数は引き続き低調に推移
物 流	 → 	→	→	輸送用機器は低調に推移するも、消費関連が堅調
情報サービス	 → 	→	↗	IT投資の機運が高まり、堅調な受注環境が続く
人 材 派 遣	 → 	→	→	製造業で挽回生産の期待があるが、自治体向けは今後、縮小見込み
観光・レジャー	 → 	→	↗	県民割などの旅行支援策で、売上高はコロナ前の水準突破か
外 食	 → 	→	↗	食料品等の価格上昇に伴うコスト増で、収益の一段の悪化を懸念

### 表の見方

業 界 天 気				売 上 高	
	好 調		低 調	↗	非常に増加(+10%以上)
	順 調		不 調	↗	増 加(+3～+9%)
	普 通			→	横 ば い(+2～△2%)
				↘	減 少(△3～△9%)
				↘	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2019年		2020年				2021年				2022年	
四半期	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II
対象月 (○は調査月)	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥ (今回調査)
全業種の平均階級値	2.90	2.65	2.30	1.67	1.67	1.87	2.47	2.53	2.40	2.60	2.67	2.53
好調:5												
順調:4												
普通:3												
低調:2												
不調:1												
(業種数)	好調 ☀️	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1
	順調 ☁️	5	3	2	1	0	0	2	3	2	2	1
	普通 ☁️	8	8	5	3	2	3	5	4	4	5	3
	低調 ☁️	7	8	10	1	2	7	6	6	7	7	9
	不調 ☁️	0	1	3	10	10	5	2	2	2	1	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4~6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7~9月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。  
 調査時点…2022年6月上旬  
 回答企業…県内主要15業種(211社)

注3) 平均階級値は、好調:5、順調:4、普通:3、低調:2、不調:1とする、15業種の平均値。  
 (2020年1~3月期までは20業種の平均値)

各業種および表の見方

### 製 紙

業務用は回復傾向だが、原燃料価格の高騰で収益性悪化

【4-6月期】家庭紙の生産量は、値上げ前の駆込み需要もあって前年を大幅に上回った。一方で、衛生用紙の需要が伸びたことによる影響もあり、仮需の反動減もあってか生産量は前年をやや下回った模様。

【7-9月期】家庭紙の生産量は、人流の回復で業務用が徐々に回復し、前年を上回る見込み。ただし、原燃料価格の高騰でコストが押し上げられ、製品の価格転嫁が難しい状況が続いている。また、食品や通販・宅配向けが底堅く推移しており、若干弱含みながら前年と同水準で推移する見通し。

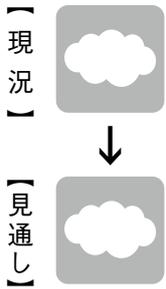
国内紙・板紙生産量 (前年比) (%)  
資料: 経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	0.1~1.0ヵ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	カ月
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

# 主要業種景況見通し

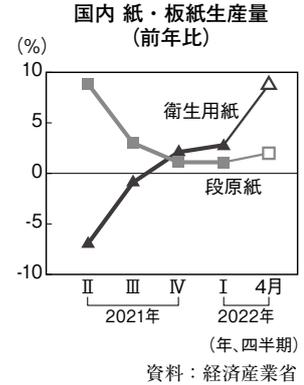
## 製紙

### 業務用は回復傾向だが、原燃料価格の高騰で収益性悪化



【4-6月期】家庭紙の生産量は、値上げ前の駆込み需要もあって前年を上回ったものの、各社が表明していた値上げは5~7%と小幅に止まり、収益的には厳しい状況が続いた。段原紙は値上げがほぼ浸透したものの、仮需の反動減もあってか生産量は前年をやや下回った模様。

【7-9月期】家庭紙の生産量は、人流の回復で業務用が徐々に回復し、前年を上回る見込み。ただし、原燃料価格の高騰で採算が悪化しており、各社は秋以降にもう一段の値上げを実施したい考え。段原紙は、主力の食料品や通販・宅配向けが底堅く推移し、若干弱含みながら前年と同水準で推移する見通し。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

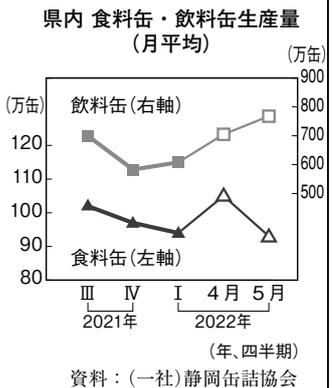
## 食品・飲料/製茶

### 価格改定が予想されるが、厳しい収益環境が続く



【4-6月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年をやや下回る水準で推移した。収益面では原燃料価格の高騰が想定以上に進み採算が悪化した。飲料缶類の生産量は、受注が減少し前年を下回った。製茶：製茶問屋の売上高は、前年をやや下回った。

【7-9月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みの見通し。原燃料価格の高騰に対応し、価格改定の実施が見込まれるものの、厳しい収益環境が続くと予想される。飲料缶類の生産量は、猛暑や外出自粛の緩和により需要が回復し、前年を上回る見通し。製茶：製茶問屋の売上高は、前年を下回る見通し。



【7-9月期売上高】

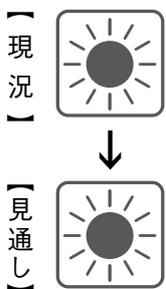
前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

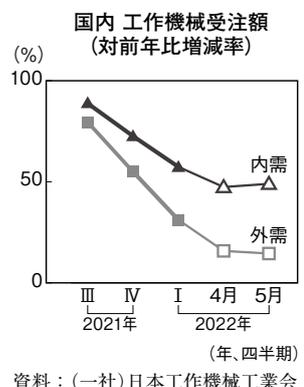
## 工作機械

### 国内外でデジタル/グリーン化投資が進み、堅調な受注環境が続く



【4-6月期】全国および県内の受注額は、前年を大きく上回った模様。メインの外需は、主力の中国市場がロックダウンの影響を受けながらも高水準を維持。欧米や東南アジア市場も自動車向けなどを中心に活況が続いた。内需は、幅広い業種で需要が拡大した。

【7-9月期】全国および県内の受注額は、前年をやや上回る見通し。省エネ対応や省人化、自動車の電動化など、次代に対応した製品開発への設備需要は国内外で底堅く、堅調な受注環境が続く見込み。一方、サプライチェーンの混乱が長引くことで、受注残が一段と拡大することが予想される。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	需要超過	適正	上昇	横ばい	1.0~10.0ヵ月

## 民生用電器部品

### 部品の調達難で、エアコン製造のピークが後ろ倒しになり前年比増

【現況】



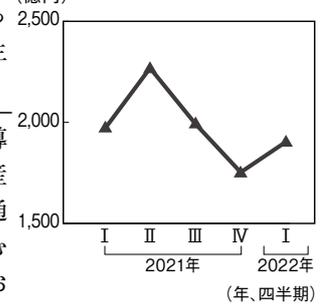
【見通し】



【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、半導体不足に加え、想定外の上海のロックダウンで5月頃から部品調達難に拍車がかかり、前年を△10～20%下回った模様。業務用エアコンは、半導体不足で計画通りに生産ができず、前年をやや下回った。

【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、半導体や部品の調達難で、本来は夏前にピークを迎える生産計画が2カ月程度後ろ倒しになり、前年を上回る見通し。ただし、調達難が長引いた場合は、前年を割り込む可能性もある。一方、冷蔵庫は部品調達が安定しており、前年実績を確保する見込み。

国内 家庭用電気機器出荷額  
(月平均)



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89～80%	需要超過	非常に過少	上昇	上昇	1.0～3.5ヵ月

## 自動車部品

### 生産量は回復傾向だが、部品の調達難で低水準にとどまる見通し

【現況】



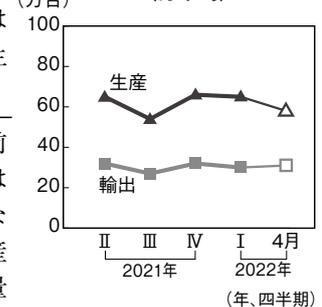
【見通し】



【4-6月期】全国の自動車生産台数は、前年を△2割前後下回った模様。半導体不足に加え、中国・上海のロックダウンで海外製部品の供給が滞り、完成車メーカーは急な生産調整を実施。これを受け、部品メーカーでも生産量が前年を下回ったが、在庫増を余儀なくされた。

【7-9月期】全国の自動車生産台数は、低水準だった前年実績を+1割程度上回る見通し。完成車メーカーでは段階的に生産水準を引き上げていく予定だが、半導体など部品の調達難は完全に解消されてはならず、再び生産計画を下回る可能性も残る。県内部品メーカーの生産量は前年を上回るも、低水準にとどまる見込み。

国内 自動車生産・輸出台数  
(月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79～70%	需要超過	過少	上昇	横ばい	0.5～1.5ヵ月

## 二輪車部品

### 完成車の需要旺盛だが供給網整わず、受注量は前年並み

【現況】



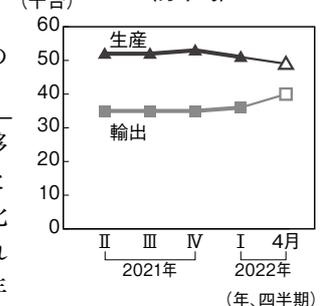
【見通し】



【4-6月期】全国の完成車生産台数は、前年を下回って推移した。需要は堅調だが海外からの部品調達が停滞し、生産が追いつかなかった。県内部品メーカーでは、完成車メーカーの急な生産計画の変更により納品予定の部品が在庫化、受注量は前年を割り込んだ模様。

【7-9月期】全国の完成車生産台数は、前年並みで推移する見通し。旺盛な需要は継続し、生産計画は増産となっているが、部品不足などサプライチェーンの正常化には時間を要し、生産台数は伸び悩むことが予想される。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量も前年並みで推移する見込み。

国内 二輪車生産・輸出台数  
(月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79～70%	需要超過	過少	上昇	横ばい	0.5～1.5ヵ月

## 建設 公共工事は回復予想だが、民間工事は前年を下回る見通し

【現況】

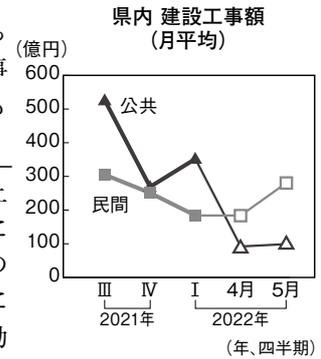


【見通し】



【4-6月期】県内の公共工事契約高は、国関係で東部や中部の護岸工事があったが、全体では前年に届かなかった。民間の工事費予定額は、中部で大学施設の大規模工事があるなど教育・学習支援業で着工が増加し、全体でも前年を上回って推移した。

【7-9月期】県内の公共工事契約高は、前年をやや上回って推移する見通し。県や市町の2022年度当初予算における投資的経費は前年比+7.5%増加しており、契約の進展が期待される。民間の工事費予定額は、前年同期に小山町で宿泊施設の大規模工事があったこともあり、反動で前年を下回って推移する見通し。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	2.0~10.0ヵ月

## 住宅 価格上昇で購入を控える動きが増加、着工戸数は前年を下回る見通し

【現況】

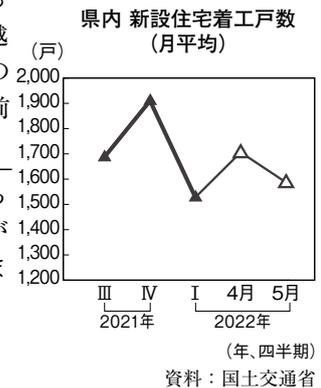


【見通し】



【4-6月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回った模様。前年同期は外出自粛規制が3月で終了して繰越需要が発生、着工戸数が増加したが、今期は減税制度の控除額減少も響き苦戦した。利用関係別では、分譲は前年を上回って推移したが、持家や貸家は前年を下回った。

【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回る見通し。建材価格の上昇分を住宅価格に転嫁する企業が増加しており、新築住宅の購入を見合わせる傾向が強まりそうである。国産材価格は落ち着きを見せつつあるが、輸送費の高騰や円安などの影響で外材価格が高止まり、収益面は依然として厳しい状況が続く。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	1.0~7.0ヵ月

## 大型小売店 百貨店は回復、スーパーは内食需要の減少で前年をやや下回る

【現況】

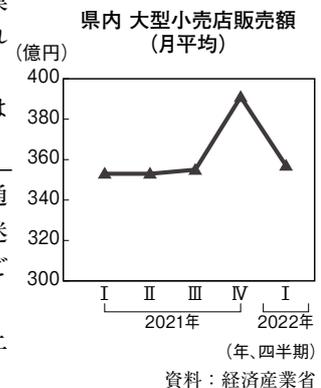


【見通し】



【4-6月期】県内の総販売額は前年をやや上回った模様。百貨店は、3月にまん延防止等重点措置が解除されたことで来客数が回復し、低調だった前年を上回った。総合スーパーは、主力の飲食料品の値上げで販売単価は上昇したが販売数量が低迷し、前年並みで推移した。

【7-9月期】県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。百貨店は、コロナ感染拡大の第5波で来客数が低迷した前年を上回る見込み。一方、総合スーパーは、巣ごもり消費が旺盛だった前年には届かない見通し。また、7月以降も、パンや調味料、飲料など多くの品目で値上げが予定されており、販売数量は伸び悩むとみられる。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
-	供給超過	-	上昇	上昇	-

## 自動車販売

### 在庫不足により、販売台数は引き続き低調に推移

【現況】

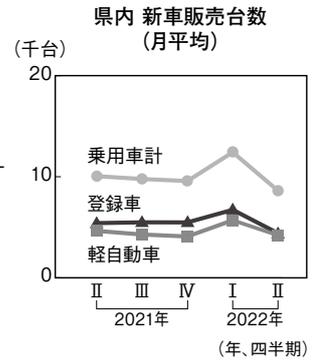


【見通し】



【4-6月期】県内の新車販売台数は、前年比△14.4%と大きく減少し、新型コロナの影響で大幅に落ち込んだ一昨年と同水準で推移した。サプライチェーンの混乱などにより、メーカーからの供給が滞り、需要に対応できなかった模様。納車期間もさらに長期化した。

【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年を下回る見通し。引き続き需要は堅調に推移すると予想されるが、生産の停滞により、販売車両の在庫は過少状態が続く見込み。生産面が回復すれば、大幅な上振れが期待できるものの、車両の供給不足が解消されなければ、人気車種では受注停止の懸念もある。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部  
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	横ばい	横ばい	3.0~6.0ヵ月

## 物流

### 輸送用機器は低調に推移するも、消費関連が堅調

【現況】

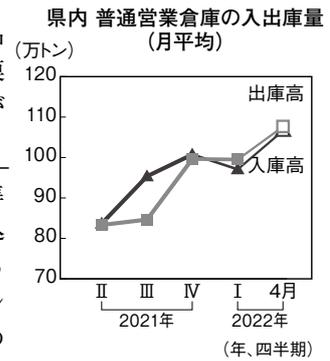


【見通し】



【4-6月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや下回って推移したとみられる。主力の紙・パルプや食料品などは堅調に推移したが、輸送用機器が低調だった模様。普通倉庫の入出庫高は、石油製品や産業機械などが大きく伸長し、前年を+20%程度上回った模様。

【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移する見通し。輸送用機器は低調に推移すると見込まれるが、食品や飲料などの消費関連は底堅く推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、主力の紙・パルプや電気機械などの荷動きに期待がかかり、前年並みの水準は確保できる模様。



資料：静岡県倉庫協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	横ばい	—

## 情報サービス

### IT投資の機運が高まり、堅調な受注環境が続く

【現況】

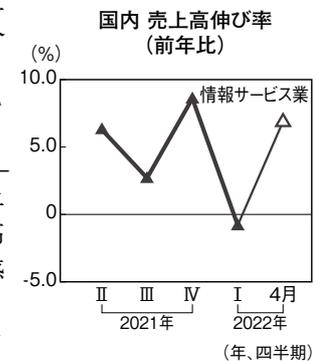


【見通し】



【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した模様。コロナ禍で、ユーザーの業況が分かれる中、得意先に応じて情報サービス事業者の業績も二極化した様子。全体としては、大手企業の旺盛なIT投資意欲に支えられ、堅調に推移した。

【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。コロナ禍でIT投資の機運は高まっており、安定した事業環境が続く見込み。コロナ感染者数が減少し、ユーザーの事業活動が正常化に向かうことで、ニューノーマルに対応するための新たなデジタル化需要も増加することが期待される。



資料：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	均衡	—	—	横ばい	3.0~11.0ヵ月

## 人材派遣

### 製造業で挽回生産の期待あるが、自治体向けは今後、縮小見込み

【現況】



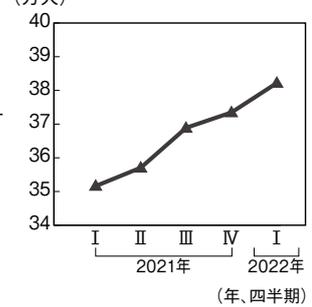
【見通し】



【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年並みで推移した模様。製造業は、半導体不足に加えて上海のロックダウンを受けて派遣需要は低迷したままだった。一方、医療介護分野は、コロナが落ちつき患者の通院頻度が戻り看護助手の需要が旺盛だった。

【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をわずかに下回って推移する見通し。製造業は挽回生産が期待され、派遣需要の回復が見込まれる。一方、これまで増勢にあった自治体向けの派遣は、コロナの感染状況にも左右されるが、ワクチン接種の一巡による規模縮小で、接種関連スタッフの需要は減少していく見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数  
(月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

→

→

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
79~70%	均衡	—	横ばい	横ばい	—

## 観光・レジャー

### 県民割などの旅行支援策で、売上高はコロナ前の水準突破か

【現況】



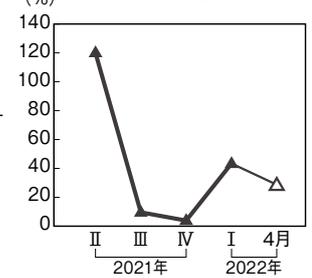
【見通し】



【4-6月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を+2~3割上回ったが、コロナ前の水準に届かなかった模様。3年ぶりに移動制限がないGWだったが、入国規制が緩和された外国人観光客の増加は限定的な上、旅行自粛を続ける人も一定数あった。

【7-9月期】県内主要旅館の売上高は前年を上回り、コロナ前の水準に届く可能性も出てきた。県民割が8月末まで延長されたことや、「全国旅行支援」は開始時期こそ先送りとなったが9月から実施される可能性が指摘されており、宿泊旅行は回復しそう。ただし、外出自粛要請が出されると宿泊需要は一気に消失する懸念あり。

県内 宿泊者数  
(前年比)



資料：観光庁

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

↗

↗

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
89~80%	供給超過	—	上昇	上昇	—

## 外食

### 食料品等の価格上昇に伴うコスト増で、収益の一段の悪化を懸念

【現況】



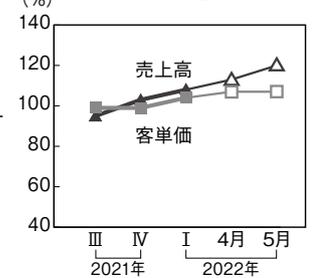
【見通し】



【4-6月期】主要外食店の売上高は、低水準だった前年実績を大幅に上回った。外出自粛の緩和に伴い家族客を中心に来客数が回復した。ただし居酒屋では、法人需要が低調でコロナ前の水準には及ばなかった模様。収益面では、原材料やエネルギー価格の高騰で採算が悪化した。

【7-9月期】主要外食店の売上高は、前年を上回る見通し。外出自粛の緩和やイベント再開に伴い家族客を中心に売上、来客数ともに増加が期待されるが、コロナの第7波の影響もあり、限定的な回復にとどまる模様。一方、食料品やエネルギーの価格の上昇に伴うコスト増加で、収益力の一段の悪化が懸念される。

全国 外食売上高・客単価  
(前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

↗

↗

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	供給超過	—	上昇	横ばい	—

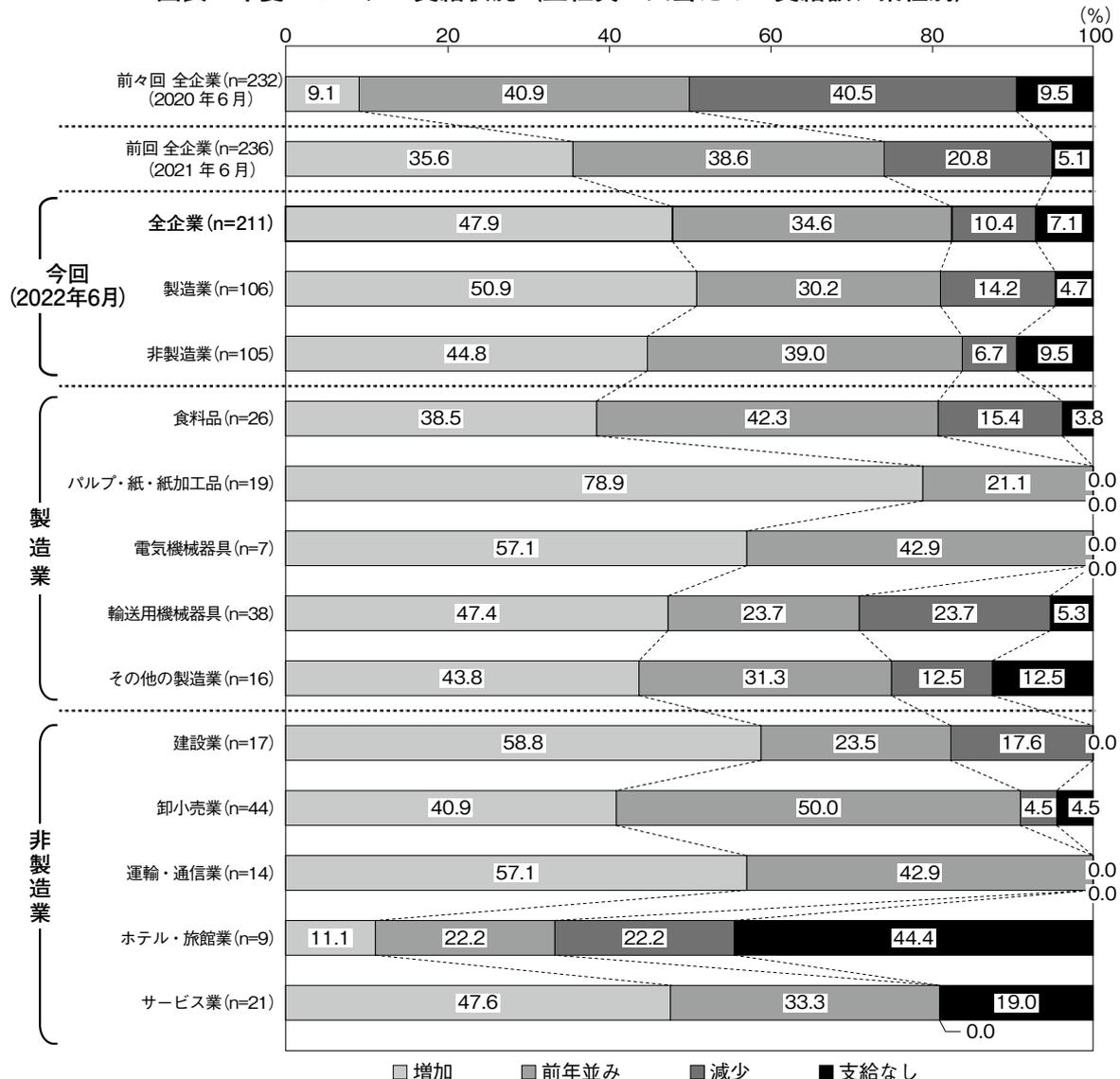
## 特別調査

### 夏のボーナスは回復傾向、製造業では“増加”回答が半数を超える

県内企業に、今夏のボーナス支給について質問したところ、前年より「増加」させると回答した企業が47.9%と、前年調査（2021年6月、35.6%）比+12.3ポイント増えた一方、「減少」させるとの回答は10.4%と、前年調査（同、20.8%）比△10.4ポイント減少し、多くの業種で回復が続いている（図表）。

業種別にみると、製造業では、製品価格の値上げの動きが進んでいる“パルプ・紙・紙加工品”で「増加」との回答が8割近くに達した一方、半導体不足などで生産調整が続く“輸送用機械器具”では「減少」との回答が2割以上を占めた。また、非製造業では、“建設業”や“運輸・通信業”で6割近くが「増加」と回答。対して、コロナ禍で厳しい“ホテル・旅館業”は「支給なし」が4割を超えるなど、業種によって明暗が分かれた。

図表 今夏のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2022年6月、調査対象企業577社、回答社数211社、有効回答率36.6%